

上尾歴史散歩

250 上尾の古い地名をこう

■中山道の東裏通りを歩く

「ぐるっとくん」を上尾原市新道で下車し、少々北上すると右折する道路がある。北側の角は内科・眼科の医家であるが、この道路は現在「原市新道」と呼ばれている。明治初年の資料にはその名はなく、「岩槻道」として「宿の西南中山道より分れ、東方上尾下村界に至る。長五町二十間」と記されているのが、これに相当するとみられる。これを見ると、当時上尾宿の人々は「岩槻道」と呼んでいたことになる（『武蔵国郡村誌』）。

原市新道角の医家は江戸末期にも開業しており、嘉永二（一八四九）年に將軍家定の奥方となる一条家の寿明姫が下向した時、同行した医師の高階丹後守が宿泊している。同じ医家ということでも宿所になったとみられるが、姫君随員の医師団であり供の者も多かったと思われるので、その対応は大変であったとみられる。姫君下向の資料が少ない中で、医師の宿泊という珍しい事例ということになる（『上尾宿上尾村関係小川家文書』）。

右折して八十メートルも進むと、小さな交差点があり、



遍照院の山門

今度は左折して北上する。百メートルも歩くと、右手にマンションが林立している。ここはかつて酒造業を営んだ家の酒蔵の跡地で、上尾宿で生産された銘酒の一つでもある。明治初年の資料によると、上尾宿全体で清酒二百六十石（約四十六・八キロリットル）を生産しているのが、当時としては「清酒の町」であったことになる。これは一面では、酒造に適した地下水に恵まれた土地であることを示しているよう（前掲書）。

元酒造業者宅前から百三十メートルも歩くと、上尾小学校門前の交差点となる。明治初年の地図では、この交差点から上尾小学校地の西南を回り、二ツ宮氷川社前に達する道が描かれている。この道路は氷川社西南で鎌倉街道と合



流し、下平塚村に達する道である。庚申塔の道標では「幸手道」とあるので、中山道から幸手宿（幸手市）への主要な道路であったとみられる（『迅速測図』）。

上尾小学校前の交差点から三百メートルも歩くと、県道上尾停車場線の交差点である。それよりさらに百八十メートルも北上すると、遍照院の門前である。同寺は江戸時代二十石の御朱印を与えられた大寺であるが、この辺りは中山道に面した土地でも上尾村分である。ここでは上尾宿と上尾村の地番が入り組み、外部の人には大変分かりにくい。上尾村が上尾宿の加宿と呼ばれたのも、このような事情によるとみられる（『上尾市史第三巻』）。

（元埼玉県立博物館長・黒須茂）



○に入る文字や数字を当ててください。

無料で「住宅用火災警報器設置済○○○」を配布しています。

（ヒントは9ページ）

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、1月23日（月）まで（必着）に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールDL：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は2月号のこのコーナーで。前号の答えは「着ぐるみ」でした。ご応募ありがとうございました（応募者45人）。

市の人口・世帯

（平成23年12月1日現在）

22万7,313人

男／11万3,528人

女／11万3,785人

※前月より26人減。

9万3,068世帯